

1. 評価結果概要表

作成日 平成 21年 2月 20日

【評価実施概要】

事業所番号	2072400563		
法人名	社会福祉法人サン・ビジョン		
事業所名	グループホームグレイスフル辰野		
所在地	長野県上伊那郡辰野町伊那宮所807番地 (電 話) 0266-41-5651		
評価機関名	コスモプランニング有限会社		
所在地	長野市松岡1丁目35番5号		
訪問調査日	平成21年2月18日	評価確定日	平成21年3月9日

【情報提供票より】 (平成21年 1月29日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 12年 10月 17日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤 6人, 非常勤 2人, 常勤換算 6.6人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り		
	2 階建ての	～	1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	33,000 円	その他の経費(月額)	光熱水費578円(冬期998円)
敷 金	有 (円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	300 円	昼食 400 円
	夕食	400 円	おやつ 0 円
	または1日当たり		

(4) 利用者の概要(平成21年 1月29日現在)

利用者人数	9 名	男性 1 名	女性 8 名
要介護 1	3	要介護 2	3
要介護 3	3	要介護 4	0
要介護 5	0	要支援 2	0
年齢	平均 84.3 歳	最低 69 歳	最高 95 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	・ 町営辰野病院 ・ 村上歯科医院
---------	-------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

国道153号線から西側に入ると、里山を背に、冬の柔らかな日射しを浴びた陽だまりの中にホームが見えてくる。敷地内にはデイサービスもあり、ドア一つで行き来ができる。日頃からお茶を楽しんだり、催しには随時交流をしている。職員は日頃の入居者の「つぶやき」を法人全体のリーダー会に持ち寄り分析し、支援の方策を検討している。各入居者の「せりふ集」を作り声がけに活用し、より良いケアに取り組んでいる。また家族との交流も活発に行なわれており、運営推進会議にはほとんどの家族が出席し、年一回の1泊旅行にも大勢の家族が参加している。家族も入居者とのふれあいに自信をもち、年末年始には全入居者が家に帰ることができた。訪問時、職員が子供を連れて出勤、子供と入居者が笑顔でふれあう、ホットな光景を見ることが出来た。肩肘張ることなく、ごく自然な振る舞いや関わりを大切に、普通の生活が営まれているホームである。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 法人理念を基にわかりやすい三つの理念を職員全体で話し合い独自のものを作成した。栄養摂取や水分量の確保については法人の栄養士によりカロリー計算、栄養のバランスなどを見てもらっている。他にも医師のアドバイスを受けている。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 今回の自己評価は管理者が介護チェック表の記録等から推察して作成し、全職員に確認をとった。全員で項目毎に検討することで、意識合わせやケアの振り返り、見直しなどが可能となるので全職員で行なうことが望まれる。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 会議は奇数月に行なわれ、区長、民生委員、地域包括支援センター所長、ご近所の方、家族が参加している。今ではほとんどの家族が参加している。3月の会議には、1年間の入居者のいい顔を集めてスライドでお見せする計画をしている。また地域住民との防災訓練も計画している。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 満足度調査や運営推進会議への家族の参加、年2回の家族交流会、1泊旅行、家族のホームでの宿泊など、職員と家族の話し合いの場が沢山あり、家族の意見・要望を伺っている。その結果、家族も本人が自宅へ泊まることに自信を持ち、年末年始には全入居者が自宅に帰ることが出来、今年の1月1日はホームが休みとなった。
重点項目③	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	市からの介護予防事業を受託し、認知症予防教室、地区介護予防、運動器機向上教室などを行い、地区のいきいき協力委員と共に協力しながら、話し合いや指導に取り組んでいる。
重点項目④	

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	わかり易い理念が職員全員で作られ、居間に面した廊下に掲げられている。「地域」という言葉がないが、日頃家族のふれあいから地域はあたりまえのこととの認識であり、事業所運営方針、パンフレットには「住み慣れた地域」が謳われている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎日の申し送り時に理念を唱和している。毎月の会議ではサービスを振り返り、共有を図るため話し合い、全職員で取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	区費を払っている。回覧板を回していただき、どんど焼き、花火大会などの行事に参加している。地域のお店に食事に行ったり、食材の買い出しに出かけている。化粧講習会、高校生の紙芝居、社交ダンス等、様々なボランティアとも交流している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回の評価に当っては、介護チェック表の記録などから職員の取り組んで来たことを管理者が推察して自己評価を書き上げ、全職員に確認をもらった。	○	自己評価は一連の過程を職員全員で取り組むことで、職員の意識あわせ、ケアの振り返りや見直しなどが可能となるので、全職員の参加を望みます。

グループホームグレイスフル辰野

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は奇数月の平日午後に行なわれている。区長、民生委員、地域包括支援センター長、ご近所の方、家族が出席している。現在ではほとんどの家族が出ており、11月の会議では総勢20名以上となった。3月の会議には入居者の1年間の、いい顔で写った思い出の場면을スライドで発表する計画を立てている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	定期的に町保健福祉課を訪問している。ホームの取り組みや困っていることなどを相談している。事業所の新聞も届け、活動内容にも理解をしていただくよう取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月請求書送付時に、ケアプラン担当者が各入居者のホームの様子を書いた手紙や沢山の写真入りのホーム便りを郵送している。預かり金の使用状況も1ヶ月まとめて明細を送付し、確認印を頂いている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	満足度の調査アンケートを行なっている。最近行なわれた新年会には38名の家族が集まり意見交換が行われた。毎年実施される1泊旅行にも、夫婦、親子など大勢参加している。家族も入居者との泊りに自信を持つことができ、外泊も多くなって、年末年始には全入居者が家に帰ることができた。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動は止むを得ない場合に行うこととし、最小限にとどめている。今年度は職員の異動はなかった。異動などの場合、入居者や家族に挨拶するようにしている。		

グループホームグレイスフル辰野

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画を立て、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人独自のスーパーシートに基づき各職員が何にチャレンジするか目的を持って取り組んでいる。介護福祉士や介護支援専門員などの資格取得の奨励制度を設け、法人でもバックアップしている。研修には全職員がレベルに応じ参加している。また、チャレンジシートなどからの表彰制度を設け、職員が向上心を持って働いている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内のグループホームとの訪問交流が行われており、サービスの質の向上、職員の資質の向上に役立てている。全国の認知症グループホーム大会に参加し、課題発表をしている。また地域対象に認知症グループホーム啓蒙の作品を発表するなど意欲的に取り組んでいる。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ホームの入居者にはドア1つで行き来の出来るデイサービス利用から申し込みに来た方が多い。普段からデイサービスの利用者がホームに遊びに来てお茶を飲み、行事のときも行き来しているので本人納得の上でサービスを開始できている。新しく入居する場合は見学を受け入れや家庭訪問をして備えている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	「お湯で食器を洗うと水切りが良くなるよ」など、おばあちゃんの知恵袋のように教わることが多い。またおじいちゃんとの馴れ初め、名前の由来等々を自然に話している。職員は入居者に親しさを込め、尊敬をし、共に支え合う関係づくりをしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者の一寸した「つぶやき」を書きとめ、法人のリーダー会議に持ち寄り、つぶやき内容を分析後対応策を検討している。入居者の思いや意向の把握を全職員が理解できるようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族との日頃のかかわりの中で思いや意向を聞き、担当職員がアセスメントシートを作成し、計画作成担当者が確認している。全職員で意見を出し合い、本人本位の介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月に1度ケアプランの見直しを行なっている。状態が変化した際には即時見直しを行なっている。介護計画がどこまで実施されているか、介護支援専門員が週1回遂行状況を確認している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	町の介護予防事業への積極的な取り組みが行なわれている。職員の子供さんが職員と共に出勤し、入居者の名前も覚え、入居者も笑顔で言葉をかけたり、職員とおかずを配るなどホームがホットな雰囲気を漂わせていた。		

グループホームグレイスフル辰野

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	急病の場合に協力医をお願いすることはあるが、ほとんどかかりつけ医で対応している。受診日に家族と昼食するなど、家族とのふれあいの日となっている。訪問看護師が2週に一度訪れている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合における対応に関わる指針がある。入居者が治療・看護を常時必要とする状態になった場合には家族と繰り返し話し合っている。医療機関や他のサービスを希望される場合には各サービスの内容を詳しく説明するなど、家族の相談にのっている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報取り扱いをしていない	近くに点在する5つの法人事業所で声がけの「せりふ集」を作り、成功例や失敗例を示し、日々どんな声がけが良いかホームでの会議でも声がけの方法を話し合っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者のその日の体調や気分を見極め、職員は対応している。職員と一緒に調理室で野菜を刻む方、椅子に座ってもやしの芽を取る方、雑誌をめくる方、職員の子供と笑顔で話すなど、昼食までの時間を思い思いに過ごす姿を見ることができた。		

グループホームグレイスフル辰野

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	右手首を骨折し三角巾をした入居者が自力で器やスプーンを持ち替え、上手に口に運び完食する姿には感服した。その間にも「ご馳走を頂き幸せです」との感謝の言葉が聞かれた。職員の子供を交えての食事には普通の家庭のような自然な話題が広がっていた。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	その日の入居者の様子や希望から各入居者の入浴時間を決め、楽しく入浴できるようにしている。入浴前にバイタルチェックをし安全な入浴に心がけている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	カーテンを開ける、閉める、台ふきや洗濯物たたみとそれぞれ一日の役割がある。最近では牛乳パックで小物入れもつくる。みんなで「愛染かつら」のビデオを好んで見て、過去に町内にあった劇場に思いを馳せている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日の散歩、買い出しに交替で出かけている。春・秋の外出行事、年1回の1泊旅行にも出かけるなど、家族とのふれあひも深めながら行っている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	万が一に備え、徘徊検知システム導入し突然の外出にもスムーズに対応している。勤務体制から職員一人の時間帯には施錠しているが、家族にも了承して頂いている。職員は鍵をかけることの弊害について認識している。		

グループホームグレイスフル辰野

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	救急救命、AED、心肺蘇生術などの訓練が行なわれている。地域住民との防災訓練の実施も計画されている。現在煙探知機はあるが、スプリングクラー設置に関しては消防署に相談中である。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人の栄養士に日々の献立のカロリー計算や栄養バランスを見てもらっている。他に医師のアドバイスも受けている。運営推進会議や行事の時には家族にも食べて頂き評価をもらっている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	冬場の運動不足解消を兼ねて廊下の手すりの伝い歩きを取り入れている。数を数えたり、しりとり、歌を歌うなど楽しみながら行なわれている。ほとんどの入居者は日中、居間で過ごすことが多い。居間の隅にはコタツもあり、食後のくつろぎの場所ともなっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個々の居室の入り口ドアにはそれぞれお気に入りの大写真の自分や家族との写真が貼られている。室内は戸袋が造り付けになっており、広いスペースが確保できるように工夫されている。沢山の造花で飾られた居室、着飾って外出を楽しむためハンガーに沢山衣装をかけている方など思い通りの居室づくりがされていた。		

※  は、重点項目。